

【第二部】（主催）InfoCom 情報経済研究会、（共催）SSI 九州・沖縄支部 ICT 経済研究会

【テーマ】 情報経済の実証分析：これまでとこれから

報告 1                    データで読む情報通信技術の世界的な普及と変遷  
—ICT グローバル・データベースを用いたデータ観察—

報告者：野口正人（共同研究者：鷲尾哲、篠崎彰彦）

〔概要〕

本報告では、情報通信技術の世界的な普及と変遷について、「2015 年版グローバル ICT データベース」を用いて 1990 年から 2015 年まで長期観察した結果を紹介する。このデータベースは、九州大学篠崎研究室で 2012 年に整備されたデータベースに準拠したもので、世界 215 カ国・地域の ICT に関連した 157 指標と経済・社会に関連した 78 指標から成る。これをもとに、所得水準や教育水準と ICT 普及の関係、デジタル・ディバイドの変化を長期観察するとともに、「一人当たり ICT 装備量」という単位を使い各地域の特徴を明らかにする。

報告 2                    ICT 資本がエネルギー産業の生産性に与える影響  
—EUKLEMS を活用したパネルデータ分析—

報告者：藤井秀道  
（共同研究者：篠崎彰彦・加河茂美・馬奈木俊介）

〔概要〕

本報告では、エネルギー産業において ICT 資本のシェアが生産性変化に与える影響を紹介する。本研究では、ICT 資本の特性を詳細に考察するために、IT 資本、CT 資本、Software 資本に分けて利用する。加えて、生産性への影響を多面的に考察するため、労働生産性、資本生産性、原材料生産性、全要素生産性の 4 つの生産性指標を利用した。分析には 2000 年から 2014 年の 14 カ国を対象としている。分析結果より、生産性への貢献は資本別に異なるとともに、再生可能エネルギーに代表される分散型エネルギーシステムの導入が進んでいる国においては、CT 資本が資本生産性の上昇に強く貢献する傾向が明らかとなった。

報告3 ICT投資が日本のマクロ経済に与える影響の実証研究  
ーICT資本とR&D資本を明示した生産関数分析とマクロ計量モデルへの応用ー

報告者：久保田茂裕（共同研究者：篠崎彰彦）

〔概要〕

本報告では、国連指針の2008SNAに準拠した最新の国民経済計算（2011年基準、2016年12月から公表）を用いて構築したICT資本とR&D資本のデータを織り込んだマクロ計量モデル（内生変数が75、外生変数が75）を紹介する。構築したモデルは、資本ストックをICT資本とR&D資本含む一般資本に区分している点に特徴がある。ICT資本を明示した本モデルをもとに、ICT資本の蓄積がマクロ経済の成長に及ぼす影響をシミュレーションして推計したICT資本の乗数効果を報告する。最後に、本研究の応用として、ICT資本に加えてR&D資本も明示的に区分した生産関数の推定とマクロ計量モデルの構築について展望する。

報告4 企業のICT利活用とその効果に関する実証分析  
ーアンケート調査の個票データを活用した実証分析の経過と今後の取り組みー

報告者：鷲尾 哲（共同研究者：篠崎彰彦）

〔概要〕

本報告では、民間企業のICT利活用が収益や雇用に及ぼす影響について分析したこれまでの成果と今後の研究計画を紹介する。企業の就業者に対するアンケート調査結果を用いて職場のICT導入環境が収益や雇用に及ぼす影響を分析した結果、ICTの利活用は収益の増加にプラスの効果があること、雇用には増加と減少の両面で影響すること、これらの影響を与える経路は、大企業と中小企業で異なっていることなどが明らかとなった。これらの結果を踏まえて、現在は企業側に対するアンケート調査結果を用いた分析を進めている。さらに、企業に対する政府統計の個票データを活用し、正確な財務データと組み合わせた分析を行う予定の内閣府経済社会総合研究所の研究プロジェクトについて紹介する。